

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1127
施設名	光明高倉保育園
施設所在地	府中市分梅町 1-31
法人名	社会福祉法人多摩養育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光について

<テーマの設定理由>

身近なものとして、子どもたちにとって目に見えて、イメージがつかみやすいと考えたため

2. 活動スケジュール

2024年10月～2025年3月

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

(準備した素材、道具)

カラーセロファン、画用紙、光を通すマグネットブロック、積み木、LEDライト、プロジェクターなど

(準備した環境)

- ・活動する場所を大きい窓ガラスのあるところと戸外、晴れの日と曇りの日で行ない、光の入り方が違う環境を設定した。
- ・プロジェクターと壁の間にテーブルを置き、光を通すマグネットブロック、紐通しや積み木、カラーセロファンで作ったスタンドグラスなどを用意した。テーブルにどのように置いたら、どう映るかを考え、試せるようにした。

4. 探究活動の実践

(活動の内容)

- ・カラーフィルムで遊ぼう (2 歳児)
- ・スタンドグラスを作って遊ぼう (3～5 歳児)
- ・ひかりの見え方 (3～5 歳児)
- ・プロジェクターを使って遊ぼう (0～5 歳児)

(活動の様子、子どもたちの姿①)



晴れの日に出ると、地面にカラーセロファンの色が映ることを発見すると、不思議に思ったのか、じーっと見ていました。(2 歳児)



外からの光でスタンドグラスの色が映ることに気づいた子どもたち。色のついた影をお友だちが触ろうとすると、スタンドグラスを動かして、「こっちだよ」と影とお友だちのおにごっこに発展していました。(3～5 歳児)

(活動の様子、子どもたちの姿②)



こうやったらどうなるだろう、天井に照らしたり、友だちの体を照らしたり、自分の手を懐中電灯で覆ったり、いろいろと試していました。(3歳児)



プロジェクターの前に光を通すマグネットブロックを積み重ね、素敵なおうちが壁に映し出されました。周りのお友だちも関心を持って見えています。(0～5歳児)

5. 振り返り

- ・子どもたちはカラーフィルムやステンドグラスを使って、こうしたらどうなるんだろうと自分たちで考え、試してみようとしていました。
- ・他の子がしていることに興味を持って、ちょっと離れたところから見てみたり、一緒にやって、遊びが発展したりすることもありました。
- ・遊びの環境を設定した後、保育者も一緒になって遊ぶことで、遊びが発展していくように援助する一方で、子どもが自分で発見するや気づくことを妨げてしまうのではないかという課題も出ました。環境設定をする前に遊びの目的を保育者間で共有していくことが大切と感じました。
- ・子どもたちが遊ぶ姿を見て、次どんなことをしようか、保育者間で話し合う中で、子どもたちの発達や思考に合わせた環境を設定することが自然とできました。今回の取り組みを終えて、また次のテーマを設ける、または今回のテーマを掘り下げていくことで、保育の質を高めていきたいです。